

巻 頭 言

城西短期大学学長 草野素雄

城西短期大学は、1983年に城西女子短期大学として創設され、2005年より男女共学の短期大学となった。開設当初は女性人材育成のための文学科と経営学科の2学科体制であったが、改組後はベースカレッジとしてビジネス総合学科となり、就職と大学編入のベース（基礎）を重視し、社会人基礎力の人間力を育成するためのカリキュラム編成となっている。

城西短期大学では、短大のローカル人材（地域貢献できる人材）育成の重要科目として「地域連携」や「日本文化専修」を、グローバル人材（国際貢献できる人材）育成の基本科目として「海外研修」や「接客英語」などを設置している。

「地域連携」では、城西大学周辺の自治体（県、市、町）について学び、まちづくりの体験をさせている。また「公助」「共助」「自助」などの知識を修得し、地域振興策の現状と課題について理解を深め、ボランティアの重要性を体得できるようになる。

また別の「地域連携」では、観光の視点から世界、日本、地域（埼玉）を概観し、地域との繋がりを理解し、自分たちが何をすべきかを考え、協力し、前に踏み出すという城西短大の掲げるディプロマポリシーである「人間力」育成に力を注いでいる。座学だけでなく、学外実習（フィールドワーク）にも重きを置いている。

「日本文化研修」では、留学生を対象に、周辺地域の文化財（例えば高麗神社、小川町や越生町の地場産業など）を訪問し、体験学習を行っている。また別の「日本文化研修」では、文学の視点から、日本の歴史、古典、和歌や俳句、浮世絵などを学び、幅広い教養を身に付けることを目指している。

「海外研修」では、英語の会話能力を高めるだけでなく、マレーシアなど海外での生活を体験し、日本と海外文化や歴史的背景の違いを認識し、将来の進路に役立てられるようにしている。ここ2年は、コロナ禍で海外に行くことができないため、TGG（Tokyo Global Gateway）という体験型英語学習施設を通じて、東京で海外研修の疑似体験をして国際性を少しでも身に付けるよう努めている。

「接客英語」では、学生たちが事業を通じて学んだ英語表現を、実際に使えるよう学外で実践している。国会議事堂周辺、浅草など外国人のよく集まる場所で、3～4人のチームを組んで互いに支えあいながら、英語によるコミュニケーション能力を高める工夫をしている。

ローカル（Local）人材とグローバル（Global）人材は別個の存在ではなく、各自が得手不得手はあるものの、両方の要素を上手く組み合わせて、グローバル（Glocal）なコミュニケーション能力を持った人材に育つことが望ましいので、今後も日本人だけでなく留学生も含めて上記アクティブラーニングをさらに充実させたいと思う。

今回本紀要で執筆の機会をいただき、こうした城西短期大学の地域における活動・教育研究などの成果も掲載いたしました。